

薬局でできるポリファーマシー対策

すずき調剤薬局 鈴木寿枝

ライフをご覧のみなさまは「ポリファーマシー」ということばを聞いたことがあるでしょうか？ お薬をたくさん飲むことで体に悪い事がおきやすくなることを言います。特に高齢者は肝臓や腎臓の機能が低下しているため、ポリファーマシーの危険性が高くなります。お薬を減らすことでその危険性を減らせるなら、それにこしたことはありません。ただし必要なお薬はきちっと服用することが前提です。患者様にお薬をお渡ししている薬局として、ポリファーマシー対策で何ができるかを考えてみました。



まず、「おくすり手帳の活用」が思い浮かびました。おくすり手帳は医師－患者様－薬局を繋いでくれるツールのひとつです。一人一冊のおくすり手帳を携帯して、すべての医療機関や薬局でその一冊を使いまわすことが重要で、意義があります。そのことにより、いつ、どこを受診して、どんな薬をもらっているかがすべてわかります。たくさんのお薬が存在するうえに医師によって使用するお薬も違います。薬の名前が違っていても同じ働きの薬もあれば、一緒に飲んではいけない薬の場合もあります。薬局では処方箋を受けた場合、おくすり手帳に書いてあるほかの薬との飲み合わせを考えて、必要な場合は医師に問い合わせをします。その結果、お薬が減ったりすることもあります。ぜひ、おくすり手帳の活用を心がけていただきたいものです。



患者様に医師の指示通り服薬していただくように、丁寧な説明をすることも対策の一つになると思います。処方薬は指示通り服用していただくことで効果を発揮します。指示通り服用しなかったり、勝手に服薬をやめてしまったりすれば、せっかくの効果が得られず、かえって薬が増えてしまうことになるかもしれません。そして、ちゃんと服用できているかを確認することも重要なことだと思っています。生活のリズムが変化したり、飲み込むことが難しくなったりと、以前と同じようには服用できなくなったと気付かされたことがあったからです。その経験から、患者様やご家族から話をよく聞いて、服薬状況を把握し、ライフスタイルに合っているかなど、得られた情報を医師に伝えることでポリファーマシーの対策に貢献できるのではと思っています。

また普段から薬の添付文書に目を通し、お薬のなかで年齢制限のあるものや「漫然投与しない」と規定されている薬などに注意することも、薬局でできる対策のひとつだと考えています。

